

議員活動報告

「自動車産業の最前線」「新しい農業」テーマに視察

平成28年1月21日～22日

総務経済常任委員会は1月21、22日の両日、「自動車産業の最前線」「新しい農業」をテーマに、愛知県内で所管事務調査を行いました。初日は、独自技術でトマトを生産する川助農園（安西市）の栽培ハウスを視察。2日目はトヨタ自動車（豊田市）の本社、高岡工場と、豊田市の環境先進モデル都市「とよたエコフルタウン」を視察。諏訪地方にも関連企業の多い自動車産業の現状や、近未来の環境都市について知識を深めました。

「とよたエコフルタウン」は、近未来の環境技術を集約した都市空間です。水素ステーション、電動自動車の充電ステーション「スマートモビリティパーク」や、雨水の地下貯蔵、壁面緑化、保水性塗装などの新しい技術を短時間で見ることができ、私たちの生活環境が今後どうあるべきかなどについて考えるきっかけとなりました。



リチウムイオンバッテリーで走行する未来コンセプトビートル「i-unit」に試乗する議員＝トヨタ会館



体重移動だけで操作できる立ち乗り型乗り物「ウィングレット」＝とよたエコフルタウン

初日に訪問した川助農園は、富士見町立沢にも進出している農業法人です。昭和48年から水耕栽培のトマト生産に着手し、約10年前に独自の栽培方法を確立。高糖度のトマトを生産しています。栽培ハウスでは、名倉秀樹社長（47）から、栽培特許を持つ「立体栽培（仮称）」の説明を受けました。

中京地区のハウスは近年、猛暑の影響で夏季の生産量が減少しました。このため、需要の多い夏場の生産量を確保するため、高原の町、富士見に進出し、第2農場「川助農園グリーンディスカバリー」を建設しました。富士見町の気候について名倉社長は「夏の風が涼しい」と評価。「最高の環境でトマト栽培ができます」と期待を寄せています。

将来的には、町内に「農家カフェを開設したい」ということでした。

（川合弘人）



栽培特許を取得したトマトの「立体栽培」を説明する名倉秀樹社長＝川助農園